



セルビア



# SQUARE NINE HOTEL, BELGRADE

スクエアナイン ホテル「Square Nine Hotel, Belgrade」の正面エントランス。ブラジル人の建築家イセイ・ウェインフェルドが手掛けた建物は印象的で、ベオグラードのホテルの中でもクオリティーは群を抜いている。モダンながらも街の外観に融合し、セルビアで唯一LHWに加盟している新進のブティックホテルである



コンシェルジュデスクから望むロビーラウンジ「The Lobby Lounge & Bar」



メインダイニング「The Square」のエレガントなオープンエアのテラス席



筆者 **小原 康裕**  
国際ホテルジャーナリスト

慶応義塾大学法学部法律学科卒  
投資顧問会社 Haraken & Co., Ltd. CEO  
JHRCA 日本ホテルレストランコンサルタント協会  
専務理事  
JARC 宿泊施設関連連協会  
アドバイザーボードメンバー  
SKAL International Tokyo,  
Professionnels du Tourisme 会員

[www.jhrca.com/worldhotel/?cat42](http://www.jhrca.com/worldhotel/?cat42)  
[www.hoteresonline.com](http://www.hoteresonline.com)  
<https://www.facebook.com/yasuhiro.obara.16>

New Site (随時更新中)  
[www.wlhj.jp](http://www.wlhj.jp)



広々としたロビーラウンジにはさまざまな絵画が並び、床はポリッシュ加工のライムストーン製で敷物もモダンな感じだ



威風堂々としたセルビア共和国の国会議事堂。現在のセルビアは民主国家となり自由を謳歌しているが、一方でソ連の影響下、共産主義国家の首都であった面影は今も深く残り、民族の高揚を掲げた華美で重厚長大な建物が多く存在する



ベオグラードの歩行者天国ミハイロ通りには洒落たブティック、カフェやレストランが立ち並んでいる



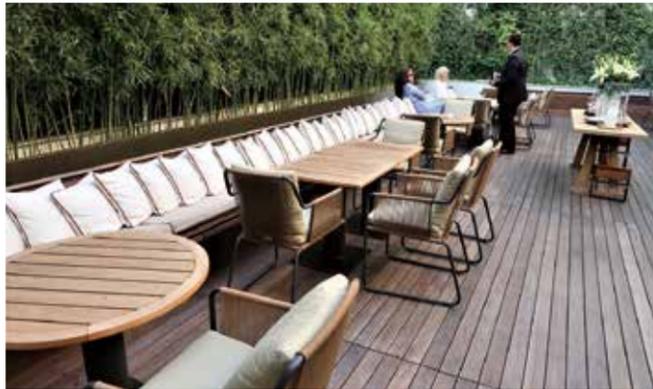
共和国広場から望む国立博物館。1844年に開館したセルビア最初の博物館で、前面にミハイロ公の像が立つ

## Square Nine Hotel, Belgrade

セルビアの首都ベオグラードは、旧ユーゴスラビア連邦の首都であった歴史もあり、バルカン半島でも屈指の大都会である。しかし、ホテル事情は街の規模に比べ、あまり芳しいものではない。そんな中でスクエアナイン ホテル「Square Nine Hotel, Belgrade」のクオリティーは群を抜いており、ブラジル人の建築家イセイ・ウェインフェルドが手掛けた建物は印象的だ。セルビアで唯一LHWに加盟している新進のブティックホテルで、モダンながらも街の外観に融合し、アーバンコンテンポラリーの客室

はエレガントだ。ベオグラードの中心部、銀座通りに当たるミハイロ通りからひと筋入ったという抜群の立地で、都会の喧騒の中にもありながらも快適さを極めた静かな空間を保持している。

旧ユーゴスラビア連邦はチトー大統領の死後、最悪の民族紛争を経て七つの国家に分裂したことは周知の事実である。五つの民族、四つの言語、三つの宗教が入り乱れる国家が軽々にまとまる訳もなく、この間の紛争の歴史はアルバニアを含めて、マケドニア編から旧ユーゴスラビアの地政学を本誌の連載で解説してきた。現在のセルビアは民主国家となり、ベオグラードの歩行者天国ミハイロ通りには洒落たブティック、カフェやレストランが立ち並んでいる。一方



メインダイニング「The Square」はオープンエアのテラス席を併設しており、ここでのブレックファストが人気だ



朝の新鮮な空気の中、ゴージャスなブレックファスト・セッティング



メインダイニング「The Square」はエレガントな雰囲気、併設したテラス席と一体となった広がり空間構成だ



ロビーラウンジ「The Lobby Lounge & Bar」のバーカウンター



ブレックファストの際は数多くのメニューが並び、いずれもクオリティーは高い



ペストリー類も多種多様で、東欧のセルビアとは思えないエレガントな空気感がある

でソ連の影響下、共産主義国家の首都であった面影は今も深く残り、民族の高揚を掲げた華美で重厚長大な建物が多く存在する。

“スクエアナイン”という奇妙なホテル名は学生広場に面した通りの住所9番地に由来する。印象的な外観の正面ファサードから中に入ると、広々としたロビーにはさまざまな絵画が並び、床はポリッシュ加工のライムストーン製で敷物もモダンな感じだ。今回はスタイリッシュな「One King Junior Suite」をご紹介したい。約55㎡の広さを持ち、上質なフローリングの温もりが感じられ、窓から広場に広がる木々を見渡せる。メインダイニング「The Square」はエレガントな雰囲気、ラウンジ「The

Lobby Lounge & Bar」と一体となった広がり空間構成だ。さらにオープンエアのテラス席を併設しており、ここでのブレックファストが人気だ。実は日本料理「Ebisu Rooftop Restaurant」もあるのだが、滞在した時は休業中であった。スパ施設「Spa & Wellness Center」は自然志向のコンセプトで、ゴージャスなプールも“chlorine-free”塩素フリーをうたっている。

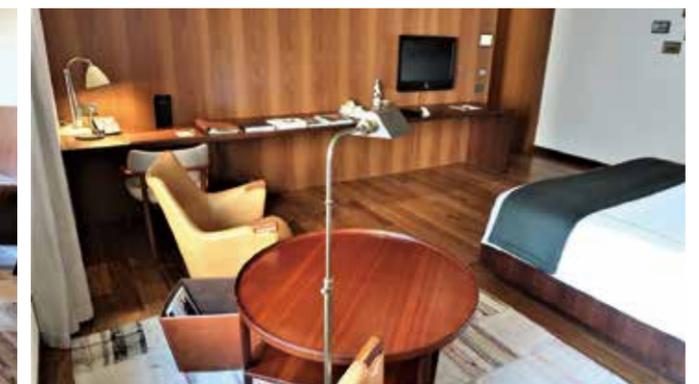
ベオグラードはドナウ川とサバ川が合流する物流の要衝に位置し、多民族が混在するこの地が戦略的重要拠点であった。かつて“ヨーロッパの火薬庫”と呼ばれたバルカン半島の盟主セルビア。ぜひ、この国の地政学的な民族の歴史を噛みしめてベオグラードの街を逍遥して欲しい。



約55㎡の広さを持つスタイリッシュな「One King Junior Suite」のベッドルーム。“スクエアナイン”という奇妙なホテル名は学生広場に面した通りの住所9番地に由来し、窓から学生広場に広がる木々を見渡せる



キングベッドの両脇にあるサイドテーブルは広く、使い勝手は極めて良好だ



窓辺のテーブル・チェアから望むベッドルーム。上質なフローリングの温もりが感じられるコンテンポラリー感覚の客室だ



スパ施設「Spa & Wellness Center」のレセプションデスク



スパは自然志向のコンセプトで、ゴージャスなプールも“chlorine-free”塩素フリーをうたっている